

特別寄稿 「農ある暮らし推進会」設立に当たって

自助共助の精神で課題を解決しよう！

新型コロナウイルスは工業生産のサプライチェーンを一時的に破壊し、食の世界でも起こる可能性があります。環境を守ってきた田畑や山林も放棄され、危険度が増しています。食の世界でも起こる可能性があります。環境を守ってきた田畑や山林も放棄され、危険度が増しています。食の世界でも起こる可能性があります。環境を守ってきた田畑や山林も放棄され、危険度が増しています。



農業生産法人誠農社 代表取締役 正敏 氏

「畦道」の筆者・館内正敏氏は、かつて日本住宅公団（現在のUR）で大都市を中心に数多くの団地設計に携わってきた。田舎クラブの設立を準備中で、賛同者を募っている。耕作放棄地を抱える農家などに農地の提供を促し、そこを住居にするという。実現には規制が多いが、都心居住者を呼び込むことで、農家も運営者も来場者も三方が満足する仕組みを作りたいという。

田舎クラブ参加者募集中

「田舎クラブ」とは、田舎の電車通勤している人々の無駄を証明するために先日開催しました。後継者のいない農家とコンクリートジャングル生活者を田舎クラブで結び、農の安全保障を可能とするアイデアを話しました。新型コロナウイルスは密集都市の危険性を証明しました。テレワークで仕事ができる事実は満員です。

リフレッシュできた!!

2週間半農半X実践

「滞在型農ホランテア」体験 20代エリート女子 暮らしの中に農業を取り入れながら、それ以外の時間は仕事や自分の好きなことに費やす生き方「半農半X」が注目されているが、在住で海外人材派遣業務に携わる田辺祥子さん(仮名29)、ニューヨーク出身で東京都世田谷区在住システムエンジニアのササラナさん(仮名22)、埼玉県川口市在住の大学生山口花さん(仮名21)。彼女らは加須市油井ヶ島の農業生産法人誠農社(田辺さん)「コロナが農作業の人手不足解消策の一環として初めて7月から9月まで実施した「滞在型農ホランテア」(1週5日、1日5時間の農作業時間)のお手伝い。それ以外の時間は自由。古くから正午近くまで誠農社敷地内のビニールハウスで無花果の収穫と箱詰め、雑草取りなどに従事。一体的にはきつかったが心身リフレッシュできた。微笑む。作業後は田辺さんとササラさんは古民家2階の机でパソコンを立ち上げて仕事を開始。一方学生の山口さんは自然豊かな油井ヶ島周辺をスケッチブック片手に散策。夜は3人一緒にリビングでテレビやビデオを見た会話をし、休日は油井ヶ島周辺の素敵なお店探しに出掛けるなど、思い深い「半農半X」生活を満喫した。



誠農社内の農場でくつろぐ田辺さん(仮名29)、山口さん(仮名22)、ササラさん(仮名21)

ケ島の農業生産法人誠農社(田辺さん)「コロナが農作業の人手不足解消策の一環として初めて7月から9月まで実施した「滞在型農ホランテア」(1週5日、1日5時間の農作業時間)のお手伝い。それ以外の時間は自由。古くから正午近くまで誠農社敷地内のビニールハウスで無花果の収穫と箱詰め、雑草取りなどに従事。一体的にはきつかったが心身リフレッシュできた。微笑む。作業後は田辺さんとササラさんは古民家2階の机でパソコンを立ち上げて仕事を開始。一方学生の山口さんは自然豊かな油井ヶ島周辺をスケッチブック片手に散策。夜は3人一緒にリビングでテレビやビデオを見た会話をし、休日は油井ヶ島周辺の素敵なお店探しに出掛けるなど、思い深い「半農半X」生活を満喫した。

「川内杯栗橋関所マラソン」開催へ

12月27日 万全な感染防止対策を講じて

コロナ禍で閉塞感が漂う中、マラソンで街を元気づけたいと、12月27日に「第2回川内杯栗橋関所マラソン」が開かれることになった。大会ディレクター・川内鴻輝氏(三男)は記者会見で、開催に踏み切った理由として、政府が9月に入ってから経済との両立姿勢を強く打ち出したこと



利根川の河川敷コースを舞台に男女とも10kmのみ。ゲストにマラソンで有名な川内ファミリー一家(長男・優輝氏、二男・トシマラソン、三男・トシマラソン)が出演する。

や地元有力者への意見聴取で「やるべき」との声が多かったこと、兄・優輝氏から「河川敷でマラソンができるければ街中のマラソンは今後永遠にできない。ぜひやってほしい」と背中を押されたことなどを挙げた。鴻輝氏は「感染防止対策に万全を期して実施する」と強調。「コロナ対策の先進的事例にしたい」と自信をのぞかせた。

「三密回避」に重点が置かれた主な内容は次の通り。①開会式、閉会式、受付業務は廃止②参加者には出場2週間前から体温測定を義務化③大会当日は入口でサーモグラフィで測定④37.5度以上は出場停止⑤男女とも450人の一斉スタート中止。⑥男女とも450人の一斉スタート中止。⑦男女とも450人の一斉スタート中止。

「第2回川内杯栗橋関所マラソン大会」は主催・川内杯栗橋関所マラソン大会実行委員会、後援・久喜市、テレビ埼玉、特別協賛・株式会社ハウジング、協賛・久喜商工会など3団体が構成メンバー。号砲は12月27日午前9時が女子、同11時が男子。なお、川内鴻輝氏によると、大会前に政府等が緊急事態宣言を再発出したり、致死率が上昇した場合は、中止するとしている。

読者プレゼント 5組10名様 日本のたてももの

一自然素材を活かす伝統の技と知恵

日本の伝統建築を様々な「建築模型」で紹介するというユニークな展覧会「日本のたてももの 一自然素材を活かす伝統の技と知恵」が12月から東京国立博物館、国立科学博物館、国立近現代建築資料館の3館で開催される。



法隆寺五重塔 / 10模型 1932年 東京国立博物館蔵

この展覧会は、日本の伝統建築・工匠の技がユネスコ政府間委員会で「ユネスコ無形文化遺産」として審議・決定が行われる見込みに合わせて開催するもの。本展の最大の特徴は、木材、土、石など多様な自然素材を優れた造形物へと昇華させた日本の伝統建築のうち、その縮小表現によって、高い美意識と加工技術を際立たせた「建築模型」にスポットを当てたこと。関係者によると「自然素材を活かした造形技術の特徴を、飛鳥時代から現代建築まで通史的に俯瞰できる」とその画期的さを強調する。

展示に際して東京国立博物館では、国宝や重要文化財の建築物の屋根を支える木組や建具などの細部、それに木材、漆喰、瓦などの肌目といった素材特性を、精巧に再現した「10分の1低縮尺模型」でじっくりと間近に鑑賞できるからたまらない。また国立近現代建築資料館では木造建築を受け継ぐための伝統技術、工匠の技とも言える

- 東京国立博物館 12月24日～2月21日
●国立科学博物館 12月8日～1月11日
●国立近現代建築資料館 12月10日～2月21日

東京国立博物館「古代から近世、日本建築の成り立ち」12月24日(木)～2月21日(日)
国立科学博物館「近代の日本、様式と技術の多様化」12月8日(火)～1月11日(月祝)
国立近現代建築資料館「工匠と近代化一大工技術の継承と展開」12月10日(木)～2月21日(日)

「古代から近世、日本建築の成り立ち」12月24日(木)～2月21日(日)
「近代の日本、様式と技術の多様化」12月8日(火)～1月11日(月祝)
「工匠と近代化一大工技術の継承と展開」12月10日(木)～2月21日(日)

プレゼント応募要領

本紙では東京国立博物館で開催される展覧会『日本のたてももの 自然素材を活かす伝統の技と知恵』に5組10名様をご招待します。ご希望の方ははがきに本紙への感想・今後取り上げてほしいテーマ・記事と住所、氏名、年齢、電話番号、メールアドレス(ある場合)をお書きのうえ、〒347-0026加須市油井ヶ島139-3-1 誠農社内「農時新聞読者プレゼント『日本のたてももの』係」に11月25日(水)までに郵送ください。希望者多数の場合は抽選で当選者を決定。商品の発送をもって発表させていただきます。